

## 鶴地区（苓北町）

**龍が黒雲を呼び名水湧く 下天草の北里から  
～受け継がれる団結力と多様な人材を農業に活かす**

キーワード

行政との連携

ストーリーづくり

露地野菜

ビジョン策定年度：令和元年度 目標年度：令和5年度

# 1. 課題と将来像・ビジョンの内容

## 地区の「課題と将来像」

### 【地区の課題】

- ・担い手（個人・組織）の育成・確保
- ・耕作条件の改善
- ・農業収入の確保とコスト削減
- ・鳥獣被害（イノシシ）の軽減
- ・喜びを感じられる農業の継続



### 【地区の目指す姿】 = ビジョン

- (1) 水稻・果樹栽培の作業しやすい環境の整備
- (2) 農業で生活できる収入の確保
- (3) 地域で有害鳥獣による農作物被害の防止
- (4) 地域資源を生かした「鶴地区 龍の里」地域づくり
- (5) 農業を柱とした地域協働活動・担い手づくり



### 【成果目標】

- ・米の相対販売単価を上げる。目標8,500円/モミ30kg（現状7,500円/モミ30kg）
- ・かぼちゃ、さつまいもを中心に多品目栽培し、耕作放棄地20a解消する。

## ビジョンの内容

### (1) 水稻・果樹栽培の作業しやすい環境の整備

- ①用水路を整備する。
- ②担い手、営農組織に農地を集積し、規模拡大及び遊休農地の活用を図る。
- ③機械の共同購入、共同利用を行い、オペレーターを育成する。

### (2) 農業で生活できる収入の確保

- ①米の高品質化、ブランド化に取り組む。
- ②直販体制を確立する（インターネット・契約・直売所等）。

### (3) 地域で有害鳥獣による農作物被害の防止

- ①団地ごとに侵入防護柵（金網）を設置する。
- ②集団的な捕獲体制の確立を目指す。

### (4) 地域資源を生かした「鶴地区 龍の里」地域づくり

- ①黒染のため池・龍の尾観音・風力発電等を活用した地域づくりに取り組む。
- ②鶴地区で収穫祭を実施する。

### (5) 農業を柱とした地域協働活動・担い手づくり

- ①営農組織をつくる。
- ②地域にマッチした付加価値の高い作物を導入する。

## 整備・導入内容

令和3年度	会議等費用弁償等、用水路更新
-------	----------------

## 2. 鶴地区の現状

### 【農業者に関する状況】

- ・総戸数 49戸
- ・総人口 約130人
- ・農家戸数 27戸
- ・農業者数 51人
- ・担い手数 16人
- ・65歳以上の就農者数 31人

### 【農地に関する状況】

#### (1) 面積区分

- ・水田 29.6 ha
- ・畑（樹園地除く） 24.1 ha
- ・畑（樹園地） 8.8 ha

#### (2) 筆数

- ・水田 356筆
- ・畑（樹園地除く） 414筆
- ・畑（樹園地） 83筆

#### (3) 作付区分

水稲、飼料作物、トマト、かぼちゃ、きゅうり、ねぎ、柑橘類、にがうり、茶、ぶどう

#### (4) 耕作放棄地 あり

農地集積加速  
化事業 地域営  
農・農地集積  
計画より

### 【基盤整備に関する状況】

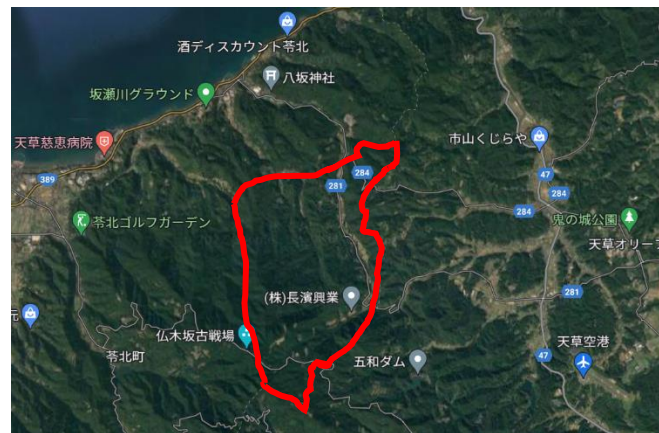
- (1) 耕作道路 幅員が2.0m以上、舗装済
- (2) 排水 コンクリート水路
- (3) 用水 水路から直接取水

### ■ 地区の現状

- ・高齢化・担い手不足。農業関係者の**平均年齢は69.5歳**。  
10年後の農業後継予定者がいない経営体が**62%**。
- ・消費地から遠いため**出荷先は農協が70%**となっている。
- ・耕作条件が悪く、**5.5haが耕作放棄地**となっている。
- ・農業用機械は、**個人所有がほとんど**である。
- ・稲作中心で利益が低い
- ・鳥獣被害の増加



農地集積加速化事業 令和元年度指定地区



©Google Map

## (1) ビジョン策定に至ったきっかけ

### 行政の働きかけと、現状に不安を感じていた地域の思いが重なった

芥北町が中山間農業モデル事業に最適な地区を探していたところ、鶴地区が候補にあがる。鶴地区には中山間農業従事者が多かったことに加え、地区住民にまとまりがあったことが決め手だった。常日頃「農地の荒廃をなんとかしなければ」と感じていた地域住民の思いと噛み合い、地域と行政が一体となってビジョン策定に乗り出した。



役員会のメンバーを中心に、町や県の職員も参加して月一回の会合が行われた。

## (2) ビジョン策定メンバーと手法

### 【メンバー】

役員13名+女性メンバー

### 【手法】

策定前の1年間で地域住民への説明会、アンケート、ワークショップ、意見交換会、視察研修などを段階的・計画的に実施した。

## (3) ビジョン策定の流れ

### 現状と課題の整理・共有

まずは地区の現状を確認、課題を整理した。フィールドワークも交えながら具体的な問題点を上げ、並行して住民説明会なども実施。「10年後の鶴地区の姿」をテーマに意見交換等も行った。

### 視察研修と改善策の検討

課題に優先順位を付け、具体的なビジョンの協議検討を行う。  
「山都町清和 高月地区」「八代市坂本町 鶴喰地区」にて視察研修を実施。

### 最終調整

これまでの協議や視察での学びを元に、鶴地区における具体的な改善策を検討し、ビジョン案を作成。

### 合意形成

ビジョン案作成後、地域での全体報告会を実施。特に地区住民への説明は丁寧に行ったため、住民に理解を得ることができ、地域全体で高い問題意識をもってビジョン策定に取り組むことができた。

## ■ ビジョン検討の流れ

回	実施日	話し合いの具体的内容	参加人数
1	令和1.5.22	・ビジョン策定内容の確認、事業予算の確認等	11人
2	令和1.6.16	・住民説明会の内容検討、活動計画、アンケート内容の協議等	11人
3	令和1.6.23	・住民説明会、他地域紹介、意見交換、アンケート配布等	33人
4	令和1.7.17	・アンケート集計、ワークショップ、行動計画確認等	9人
5	令和1.8.21	・現状と課題の整理、視察候補地検討、フィールドワーク検討	7人
6	令和1.9.11	・視察研修検討、現状と課題の対策協議等	13人
7	令和1.10.6	・フィールドワーク「現状農地の確認」	10人
8	令和1.10.9	・フィールドワーク整理、視察研修について等	10人
9	令和1.11.3	・視察研修「山都町清和 高月地区」	13人
10	令和1.11.13	・視察研修で学んだ改善策について、担い手リスト制作等	11人
11	令和1.11.27	・具体的に取り組む改善策について等	13人
12	令和1.12.12	・農業ビジョン案、農地集積計画と実施計画の検討等	10人
13	令和2.1.15	・農業ビジョン案の検討、全体説明会について等	10人
14	令和2.1.19	・全体報告会、地域営農、農地集積計画、同意署名実施等	46人
15	令和2.2.5	・全体報告会整理、農業ビジョン決定等	12人
16	令和2.2.9	・視察研修「八代市坂本町 鶴喰地区」	18人



山都町高月地区の視察研修

## (4) 重点ポイント

**行政との連携** を綿密に行い  
活動計画を立案・実施した

代表が役場出身だったこともあり、行政との連携がスムーズかつ綿密に行えた。行政からの声かけがビジョン策定のきっかけではあったが、**あくまで地域住民が主体となって進めていけるよう、行政側がサポートに徹していた**ことも住民の合意形成の一助となった。

## (1) 水稲・果樹栽培の作業しやすい環境の整備

### ① 用水路を整備する。

#### 年度末までに6～7割が完了予定

鶴地区の一部ではポンプ20台ほどで取水し、農作業を行っていた。水路の老朽化等の問題もあり、以前から農業従事者は水路整備の必要性を実感していた。令和2年度から用水路の整備に着手し、令和3年度末で計画の約6～7割を整備する予定。ただ、本来は、令和3年度までに完了予定だったが、交付金を要望通り受け取ることが出来ず滞っている状況（令和3年度は679万円を申請、うち377万円交付）。

事業完了区間の水田耕作者からは感謝の声も聞かれた。来年度までには全範囲の水路整備を完了する予定だが、その後の維持・管理に対して予算面で不安が残っている。



維持管理を考慮した新水路

### ② 担い手、営農組織に農地を集積し、規模拡大及び遊休農地の利活用を図る。

集積説明会を開催し、マッチングを行ったことで、担い手へ新たに3haの農地を集積することができた。(18.7ha → 21.7ha)

### ③ 機械の共同購入、共同利用を行い、オペレーターを育成する。

令和4年度には機械倉庫を建設し、穀物乾燥機、粃摺り機、自動選別計量機、管理機など共同利用の機械を導入する方針。



老朽化が進んだ旧水路

## (2) 農業で生活できる収入の確保

- ①米の高品質化、ブランド化に取り組む。
- ②直販体制を確立する（インターネット・契約・直売所等）

### 米の品質は年々向上、伝説に絡めたブランド化を検討

地理的、気候風土的有利な条件に加え、天草広域本部農業普及・振興課による水稻栽培技術の指導もあり、鶴地区で生産する米の評価は年々上がっている。今後更なる品質向上に取り組み、目標はモミ30kgあたり単価8,500円、ふるさと納税の返礼品採択を目指している。

※名水百選でもある「黒染の堤（くろそめのつつみ）」は、スローガンに掲げる「龍の暗雲」伝説の由来の地でもある。

## (3) 有害鳥獣による農作物被害の防止

- ①団地ごとに侵入防護柵（電柵）を設置する。
- ②集団的な捕獲体制の確立を目指す。

### 研修で鳥獣対策の知識及び技術を習得

苓北町の有害鳥獣対策モデル地区として指定され、各種研修会を開催した。(株)イノピーの指導のもと、電柵の適正な設置方法を農家が理解・共有するとともに、箱わなの効果的な設置により、実際にイノシシの捕獲も増えた。今後の課題として、イノシシの餌場となる耕作放棄された果樹園への対策を考える必要がある。



イノシシ対策の電柵

## (4) 地域資源を生かした「鶴地区 龍の里」地域づくり

### ①黒染のため池・龍の尾観音・風力発電等を活用した地域づくりに取り組む。

#### 龍の暗雲伝説で地域にストーリー性を

一体感を持って地域づくりを行うために、地域の資源をストーリーで「結ぶ」。鶴地区には「干ばつの時、農民が雨ごいをしたら龍が天高く舞い上がり、黒雲が出て雨が降り出し、下流の田畑を潤した」という龍の伝説がある。スローガンにも掲げるこの伝説をPRして地域ストーリーをつくり、地域産業への波及効果をねらう。

### ②鶴地区で収穫祭を実施する。

#### コロナ禍の影響もあり収穫祭は未実施

令和3年から試験栽培しているさつまいもを利用し、郷土料理の「つき揚げ」づくりや、いも掘り体験を実施した。コロナ禍の影響もあり計画通りには進んではいないが、収束後には地域イベントである「十五夜綱引き大会」などで収穫祭のような催しを取り入れる予定。地域づくりの構想をどのように共有できるかは常時考えていく。



いも掘りのようす



収穫したさつまいもを食べる子どもたち



郷土料理づくり



## (5) 農業を柱とした地域協働活動・担い手づくり

## ① 営農組織をつくる。

## ② 地域にマッチした付加価値の高い作物を導入する。

## 品質は向上傾向、地域の伝説に絡めたブランド化を

令和3年度に初めてさつまいもの試験栽培を実施。5a程度の農地に栽培した結果、約300kgの収穫があった。鶴地区の土地にさつまいも栽培は適していると思われるため、今後更なる拡大を検討している。

一方、かぼちゃは栽培に手がかりすぎるため、農家からは消極的な意見が多かった。

現在はこっばもちの原料である、さつまいもを小さく切って天日干した「こっば」をAコープ苓北店へ出荷しているが、今後は新たな販路の確保、付加価値をつけるための加工品の開発が目下の課題となっている。



上下ともさつまいも畑



こっばもちの原料となる「こっば」

## 振り返り・成果・今後に向けて

## (1) 振り返り（ビジョン策定と取り組みの総括）

【取り組みが継続するためのポイント①  
～ビジョン策定時】

**具体的・計画的な  
課題の設定と共有**

【取り組みが継続するためのポイント②  
～取り組みの総括】

**課題に優先度をつけ、  
着実に取り組む**

## (2) 成果

## 【成果目標】

- ・米の相対販売単価を上げる。
- ・かぼちゃ、さつまいもを中心に多品目栽培し、耕作放棄地20a解消する。

## 【結果】

- ・品質は向上しているが単価上昇には繋がらず。
- ・さつまいも栽培は手応えがあり、今後拡大予定。

## 【メンバーの声】

**自分たちで地域を守るという意識が高まった**

地域の主だったメンバーが、地域のことを真剣に考えられるいい機会となった。個人が抱える問題として扱うのではなく、自分たちが生活する地域を守ろう、良くしようという意識の高まり、まとまりを感じた。

## (3) 今後に向けて

**耕作放棄地の対策を優先に、次期担い手へのアプローチも行う**

高齢化や担い手不足が続く中、今後は耕作放棄地の増加が懸念される。中山間農業モデル事業等で施設整備・機械導入を行い、組織による作業受託を行うことで耕作放棄地と米の生産費用、両方の減少を図る。また、担い手を募集するための発信を町へ要請するなど、今後も行政と連携しながら取り組んでいく。